

【錦町】

1人1台端末の利活用に係る計画 (令和8年2月改訂)

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、第6期錦町総合基本計画において、ICT教育のさらなる推進を掲げ、それにより『錦町の将来を担う人材の育成』を目標としている。

AIなどの技術革新が進む新たな時代に対応するために、学校教育も変化していく必要がある。そのために、ICTを効果的に活用することで、子どもたちの力を最大限引き出し、次世代の自分の思い描く生活を実現させていくことが求められている。

本町においては、ICT機器を効果的・積極的に活用した授業づくりを推進し、児童生徒が基礎的な知識・技術を習得し、発展的な知識を取得しそれらを活用して様々な問題に積極的に対応し解決していく生きる力の育成に努めている。

2. GIGA第1期の総括

本町では、小学校4年生以下と小学校5・6年及び中学生以上の児童生徒によって現在使用している端末が違う。これにより小学校4年生から5年生に進級した際に、また1から使用方法を習得する必要があった。今回の端末ではそういった課題や学校での影響をなくしていきたいと考える。

通信ネットワーク基盤の整備については、今後はアクセスポイントの更新等を視野に入れ、さらなる整備の充実をはかる。それにより児童生徒が学習支援ソフトやデジタル教科書等をさらに効率的に使用できる環境を構築していきたい。

①経緯と現状

錦町では、GIGAスクール構想に基づき、平成26～28年度及び令和2年度に小・中学校の児童生徒に1人1台端末を整備した。この5年間で学習用端末を接続するためのICT環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきた。

②ICT施策の実施内容

- ・ネットワーク環境の強化：ネットワークアセスメント調査を実施し、その結果を基にインターネットの接続方式をインターネット方式からインターネット分離方式に変更した。これにより、ネットワークの安定性と速度の向上を図った。
- ・教育支援の整備：令和6年度中に全ての小中学校に新しい電子黒板及び、電子黒板用PCを購入し、さらに質の高い学習を目指すきっかけ作りができた。また、ICT支援員1名程度を配置することで、授業の質の向上に努めてきた。
- ・学習活動の充実：整備したICT環境を活用することで、児童生徒が情報収集、共同編集、意見共有、ICT端末を用いた発表など、さまざまな学習活動を行えるようになった。

③課題

- ・教職員間のICT活用のばらつき：授業や校務でのICT活用頻度に教職員間で差があることが課題として挙げられる。

今後は、ICT研修を年1回以上計画・開催し、タブレット端末を学校全体で活用できるよう授業を担当する教員含め、校内・オンライン・オンデマンド等多角的に研修を実施していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

錦町では、GIGAスクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持する。その効果的な利用促進に向けて、以下の通り取り組みを進めていく。

(1) 1人1台端末の積極的活用について

本町では、「1人1台端末の積極的活用」の取り組みとして、ICT支援員による授業支援を行っている。現在は小中学校4校に対して1人の支援員を配置している現状である。児童生徒のタブレットの操作の仕方はもちろん、機器の年度切り替え作業等も迅速に対応できている。

令和7年度において、端末の更新を行ったことからICT支援員の能力も重要となる為、今後は支援員の能力向上にも努めていく。

今後も学校や教職員との連携をさらに強化し、積極的な活用を後押しできるよう努める。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

児童生徒が1人1台端末を週3回以上活用して、「自分で調べ、自分の考えをまとめ、発表・表現できる授業」「教職員と児童生徒・児童生徒同士がやりとりする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」を展開できるように、様々な市町村等の事例を見つけ、それをその校独自で発展していけるよう情報の提供及び支援を行う。

(3) 全ての児童生徒への学びの保障について

不登校の児童生徒、障がいのある児童生徒や特別な支援が必要な児童生徒（外国人児童生徒等）に対して、学習支援ツール等のICTを十分活用することで学習の場を確保できるよう、みんなが学べる環境を提供していきたい。

また、今後オンライン会議ツールを利用したリモート授業などを利用し、不登校や特別な支援が必要な児童生徒に対し、実態等に応じた端末を活用した支援を実施していく。

(4) 情報活用能力の向上について

情報活用能力調査（令和3年度実施）における児童生徒の情報活用能力について、小学生のレベル3が23.6%、中学生のレベル5が24.9%となっており、今後はレベル3・5以下の減少を目標に1人1台端末の積極的活用を進めていく。

また、同調査におけるキーボードによる日本語入力スキルの結果を基に、小学校で40文字（文字/分）、中学校で60文字（文字/分）の入力スキル向上を達成できるよう端末の積極的利活用を進めていく。